

役員所感

副理事長 藤井 浩幸

<基本方針>

「組織の進化」「JCの真価」「地域との深化」「己の心火」この4つの「SINKA」を基に我々が今後の5年間において進むべき方向を過去の取り組みを参考に6つの分野で定めたアクションプラン「フューチャーズシックス」。これは2009年度、(社)上越青年会議所が45周年を迎えるにあたり、「真に豊かなまち上越」の創造を念頭に会員が自ら考案し発表したものであり、今年度はいよいよそれらを自覚と責任をもって実践に移していかなければならない。そして、その実践に向け私は特に次の3点に注力したいと考えている。

まず一つに、入会年数の浅い会員の割合が増加してきている当組織の中において、会員各々が自身の職務・職責をしっかりと自覚し運動及び活動するように導くことである。もちろん、私自身も「理事長」に「副」が付く意味を自覚し、役職に驕ることなく、場面に応じた立ち振る舞いを常に考え行動したいと考えている。次に、様々な運動展開における「本質の見極め」である。「地域への訴求力」や「地域のため」と言いながら、実は我々だけの自己満足に終始してしまった運動が過去に少なからずあるという中で「地域の本当のニーズはどこにあるのか」「客観的にみてどうなのか」といったマーケティングを徹底する。更には、その先のビジョンを明確に見据えた上での運動展開へと誘導する。この点は、近い将来に公益社団法人格の取得を目指す我々において事務手続き以上に重要なことであり、また、青年経済人としても実社会で求められる要素である。三つ目に「運動の継続性及び将来性の検証」である。今後、更に増えるであろう地域のニーズや実情を捉えた公益的運動や我々が決めたアクションプランの実践を鑑みると、我々の都合だけで運動を完結し「単年度制の弊害」という言葉で簡単に片付ける訳にはいかななくなることは容易に想像できる。

出来ない理由を探すのはもう止めよう。我々自身が自覚と責任を持ち己を律することから始め、地域のニーズや実情を客観的且つ多面的に捉え、それらに裏打ちされた説得力ある運動を能動的に幅広く伝播していくことが、真に地域や社会から必要とされる組織へと昇華する原動力となり、その実現の先には「真に豊かなまち上越」があると確信している。